



第2次東大阪市歯科口腔保健計画

歯っぴいトライ(第2次)

計画期間:令和6(2024)年度～令和17(2035)年度

計画の詳細は、
市ウェブサイトを
ご覧ください。



令和6年3月
東大阪市

HIGASHI-OSAKA



東大阪市マスコットキャラクター

トライくん

第1章 歯っぴいトライ(第2次)策定にあたって



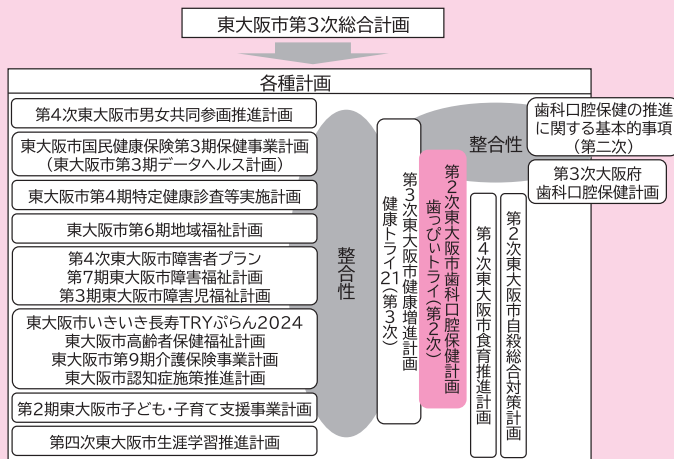
1 策定の経緯

- 歯と口の健康の保持・増進は、健康で質の高い生活を営む上で基礎的かつ重要な役割を果たしています。
- 本市では、「第2次東大阪市健康増進計画 健康トライ21(第2次)」における健康分野の一つとしての取組みに加え、具体的な行動計画・指標として「東大阪市歯科口腔保健計画 歯っぴいトライ」を平成26年に策定し、歯科口腔保健の推進に取り組んできました。
- 最終評価で明らかになった本市の状況及び課題を踏まえ、「第2次東大阪市歯科口腔保健計画 歯っぴいトライ(第2次)」を策定し、さらなる歯科口腔保健の推進を図ります。

2 計画の位置づけ

- 歯科口腔保健施策を総合的かつ計画的に推進するための基本計画です。
- 国の「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項(第二次)」や大阪府の「第3次大阪府歯科口腔保健計画」を踏まえ、「健康トライ21(第3次)」などの関連計画と整合性を図っています。

■ 歯っぴいトライ(第2次)の位置づけ



3 計画期間

- 令和6年度から令和17年度までの12年間
- ※計画開始後6年(令和11年度)を目途に中間評価を、11年(令和16年度)を目途に最終評価を行います。

第2章 歯っぴいトライの最終評価及び歯っぴいトライ(第2次)に向けた課題

歯っぴいトライ(第2次)に向けた課題

- 40歳代や60歳代における歯周病治療が必要な者の割合に関する項目は悪化しています。



■ 最終評価の概要

評価	項目数	割合(%)
A 目標に達した	5	18.5
B 目標に達していないが、改善傾向にある	10	37.0
C 変わらない	2	7.4
D 悪化している	7	25.9
E 評価困難	3	11.1
合計	27	100.0

今後の方向性

- かかりつけ歯科医などで定期的に歯科健診を受けることの重要性を啓発します。
- 日頃のセルフケアと定期的なプロフェッショナルケアを両輪で進めることの大切さを啓発します。

第3章 計画の基本的な考え方

1 基本理念

市民がともに支え合い、健康で心豊かに生活できる持続可能な社会の実現
～ONE TEAMで取り組む 東大阪の健康づくり～

2 基本目標

歯科口腔保健の推進による健康寿命の延伸・健康格差の縮小

3 基本方針

(1) 歯科疾患の予防及び口腔機能の獲得・維持・向上

①乳幼児期 ②少年期 ③青年期・壮年期 ④中年期・高齢期

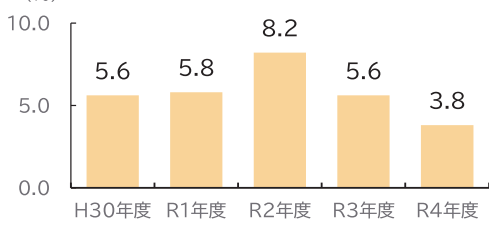
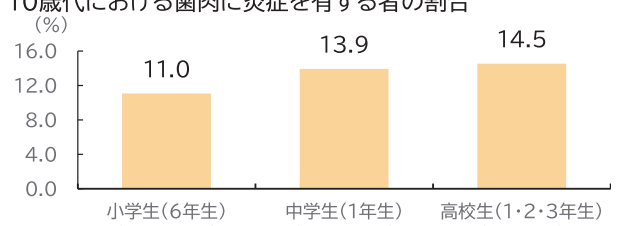
(2) 定期的に歯科健診又は歯科医療を受けることが困難な者に対する歯科口腔保健

(3) 歯科口腔保健を推進するために必要な社会環境の整備



第4章 具体的な取組みと目標

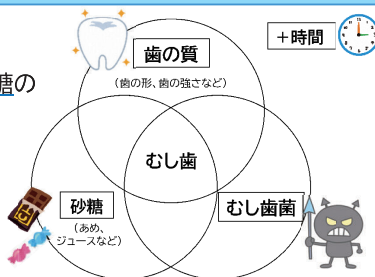
1 歯科疾患の予防及び口腔機能の獲得・維持・向上

	乳幼児期(0～5歳頃)	少年期(6～14歳頃)
	 歯と口の健康づくりに取り組みましょう  むし歯を予防し、お口の機能を育みましょう	 歯と口の健康づくりを通して、健康的な生活習慣を身につけましょう  むし歯・歯肉炎を予防しましょう
特徴	● 乳歯が生え始め、かみ合わせが作られていく時期 ● 食べる、話すなどの口腔機能や味覚が発達する時期 ● 生えて間もない乳歯は、歯の質が弱く、むし歯になりやすい	● 乳歯から永久歯に生えかわり、顎が成長する時期 ● 乳歯と永久歯が混在し、歯磨きが難しく、むし歯や歯肉炎になりやすい
現状と課題	● 3歳児でむし歯のない者の割合は増加傾向 ● 3歳児で多数のむし歯を有する者が一定数存在 ■ 3歳児で4本以上のむし歯を有する者の割合 (%)  資料：東大阪市3歳6か月児歯科健康診査	● 12歳児でむし歯のない者の割合は増加傾向 ● 10歳代における歯肉に炎症を有する者の割合は年齢が進むにつれ増加 ■ 10歳代における歯肉に炎症を有する者の割合 (%)  資料：東大阪市小・中学校、高等学校の学校歯科健康診断
取組みの方針	● 歯科保健指導等での、むし歯の予防や健全な口腔機能を育てるための正しい知識の情報提供 ● 多数のむし歯のある子どもや保護者に対する支援 ● 「歯と口の健康週間」や「よい歯のコンクール」などを活用した啓発 主な取組み 1歳6か月児・3歳6か月児歯科健康診査、2歳児歯科健康相談、保育所等での歯科健康診査、よい歯のコンクールなど	● 歯科健康管理指導等で、むし歯・歯肉炎の予防や健全な口腔機能を育てるための正しい知識、食育等を情報提供し、児童・生徒が望ましい生活習慣を身につけるよう働きかける ● 学校歯科健康診断の実施、その結果に基づく受診勧奨 主な取組み 小学校・中学校等での学校歯科健康診断や歯科健康管理指導など
市民が取り組むこと	● 幼児歯科健診を受け、子どもの歯と口の状態を把握する ● 間食は、内容を工夫し、時間を決めて食べる 	● 学校歯科健康診断を受け、歯と口の状態を把握する ● 学校歯科健康診断で受診を勧められたら、早めに受診する 

むし歯

むし歯は、むし歯菌が砂糖を摂取・分解して酸を作り出し、この酸により歯が溶けることで発生します。歯の質、むし歯菌、砂糖の3つの要素と、時間が関係しています。むし歯を予防するには、

- ▶ 歯磨き習慣を身につけお口を清潔に保つこと
- ▶ フッ化物を利用して歯の質を強くすること
- ▶ 間食は糖分の少ないものを選び、回数を少なくすること
- ▶ だらだらと食わず時間を決めて食事をするのが大切です。

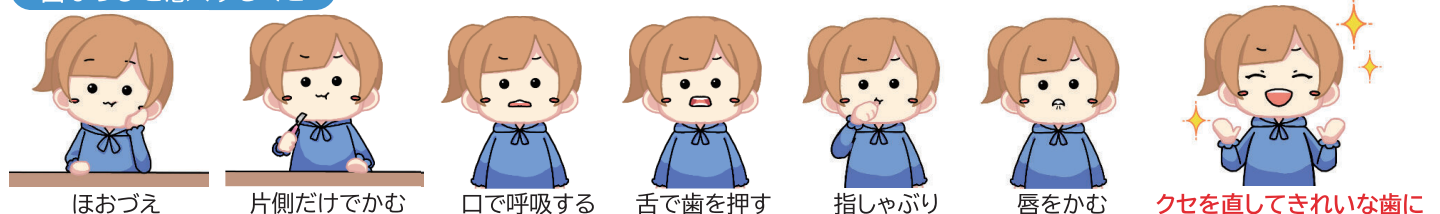


歯間部清掃用器具

歯と歯の間の清掃をするための補助用具



歯ならびを悪くするくせ

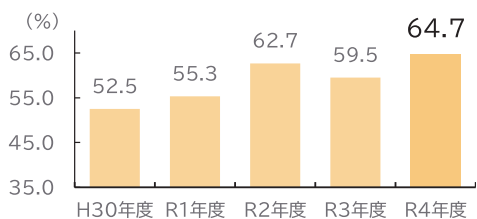


青年期・壮年期(15～44歳頃)

毎日の口のおケアと定期的な歯科健診で、
歯周病を予防しましょう

- 歯と口への関心が薄れる時期
- 加齢とともに、歯周病の罹患率が増加する

- 40歳代における進行した歯周炎を有する者の割合は増加
- 40歳代における進行した歯周炎を有する者の割合



資料: 東大阪市成人歯科健康診査

- 40歳で喪失歯のない者の割合は減少
- 若い世代からの歯と口の健康管理が重要

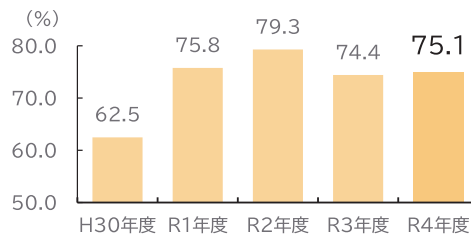
中年期・高齢期(45歳以上)

毎日の口のおケアと定期的な歯科健診で、
歯周病・歯の喪失を予防しましょう

よく噛んで、おいしく食べて楽しく話し、
健康に過ごしましょう

- 歯周病が進行して歯を失いやすく、口腔機能が低下しやすい時期
- 歯周病などにより露出した歯の根元がむし歯になりやすい時期
- 口腔機能が低下すると、誤嚥から誤嚥性肺炎を起こすことがある

- 60歳代における進行した歯周炎を有する者の割合は増加
- 60歳代における進行した歯周炎を有する者の割合



資料: 東大阪市成人歯科健康診査

- 80歳で20歯以上の自分の歯を有する者は6割近く
- 何でもかんで食べることができる者は年齢が進むにつれ減少

- かかりつけ歯科医などで定期的に歯科健診を受けることの重要性を、高校や大学、企業、地域等と連携して啓発する
- 歯ブラシや歯間部清掃器具を用いた日頃のセルフケアと、定期的なプロフェッショナルケアの大切さを周知する
- 歯と口の健康は全身の健康とも関係していることを、関係機関や関係部署と連携して啓発する



主な取組み

高等学校での学校歯科健康診断や歯科健康管理指導、
成人歯科健康診査、成人歯科健康相談など

- オーラルフレイルとその予防について多職種と連携して啓発する
- 口腔体操のリーフレットを作成、啓発する

主な取組み

成人歯科健康診査、成人歯科健康相談、高齢者の保健事業と介護
予防の一体的実施、東大阪健康・長寿マイレージなど

健康はお口の元気から



- 定期的に歯科健診を受け、歯と口の状態を把握する
- 歯ブラシや歯間部清掃器具を用いた適切なセルフケア習慣を身につける
- ゆっくりよく噛んで食べる習慣を身につける
- かかりつけ歯科医をもち、むし歯や歯周病の予防に取り組む
- 糖尿病などの生活習慣病や喫煙が、歯周病と深い関連があることを知って、主体的に歯と口の健康づくりに取り組む



- 口腔体操に取り組み、オーラルフレイルを予防する

歯周病

歯と歯ぐき(歯肉)の間に繁殖する歯周病菌が歯ぐき(歯肉)に炎症を起こし、徐々に歯の周囲を支えている組織が壊れていく病気です。

炎症が歯ぐき(歯肉)に限定されているときは歯肉炎、それ以上に進行すると歯周炎(歯槽膿漏(しそうのうろう))とよびます。

症状が進行すると、歯と歯ぐきの間に溝(歯周ポケット)ができたり、歯を支える骨(歯槽骨)が溶けていき、やがて歯が抜けてしまう原因にもなります。

歯周病予防の基本は、歯垢がつかないようにすることで、毎日の歯磨きや定期的な歯石除去が有効です。



喫煙と歯周病の関係

喫煙者は、非喫煙者と比べて歯周病にかかりやすく、悪化しやすいことがわかっています。

歯周病と全身の健康との関係

歯周病は様々な全身疾患と関連していることが報告されています。



第4章 具体的な取組みと目標

2 定期的に歯科健診又は歯科医療を受けることが困難な者に対する歯科口腔保健

特徴

- 口腔衛生状態を良好に保つことが難しく、むし歯や歯周病のリスクが高くなる

現状と課題

- 過去1年間に歯科健診の機会のない施設が多くある
- 過去1年間の歯科健診実施率

(障害者が利用する施設)

全体(n=38)

実施している 23.7 %

実施していない 76.3 %

資料: 令和5年度障害者が利用する施設へのアンケート調査

(要介護高齢者が利用する施設)

全体(n=33)

実施している 45.5 %

実施していない 54.5 %

資料: 令和5年度要介護高齢者が利用する施設へのアンケート調査

- 歯と口の健康管理のための研修を受ける事業所等の割合は約4割

取組みの方針

- 本人または介護者による日常的な口腔ケアとかかりつけ歯科医などによる定期的な歯科健診の重要性について啓発する
- 施設における歯科健診の拡充を目指す
- 施設利用者や職員を対象とした、口腔ケアや口腔機能の維持向上のための研修を実施

主な取組み

成人歯科健康診査、障害福祉サービス事業所歯科口腔保健事業など

市民が取り組むこと

- **かかりつけ歯科医**を持つ
- 家族や介護者、施設職員等は、**定期的な歯科健診**の重要性を理解し、**口腔ケア**や口腔機能の向上に関する正しい知識を持って、歯と口の健康管理をサポートする

3 歯科口腔保健を推進するために必要な社会環境の整備

- 行政や関係機関等が連携・協働を図り、歯科口腔保健を推進する
- 高校卒業後は、歯科健診を受診する機会が減少する
- 妊娠期は、ホルモンバランスや生活習慣の変化等により、むし歯や歯周病のリスクが増加する
- フッ化物応用はむし歯予防効果や安全性などの観点から推奨される

● 過去1年間に歯科健診を受診した者の割合(20歳以上)は5割に満たず、若い世代ほど受診率が低い

■ 過去1年間に歯科健診を受診した者の割合(20歳以上)

世代	受診している (%)	受診していない (%)
全体(n=648)	49.2	50.8
20歳代(n=71)	36.6	63.4
30歳代(n=66)	43.9	56.1
40歳代(n=99)	59.6	40.4
50歳代(n=144)	47.9	52.1
60歳代(n=130)	48.5	51.5
70歳代(n=138)	52.9	47.1

資料: 令和5年度健康トライ21市民アンケート

- 妊婦歯科健康診査の受診率は年々増加するも、約3割程度
- 15歳未満でフッ化物応用の経験がある者の割合は7割に満たない

● 定期的な歯科健診の重要性について、働く世代を対象に、公民連携を活用した啓発や、商工会議所や企業への出前講座等を実施する

● 成人歯科健康診査や妊婦歯科健康診査の受診率向上を目指す

● フッ化物応用の重要性を関係機関と連携して啓発する

主な取組み

成人歯科健康診査、妊婦歯科健康診査など

第5章 その他歯科口腔保健の推進に関する事項

1 大規模災害時の歯科口腔保健に関する事項

- 災害時の口腔ケアの重要性や、非常持ち出し袋への口腔ケア用品の準備の必要性などを普及啓発します。

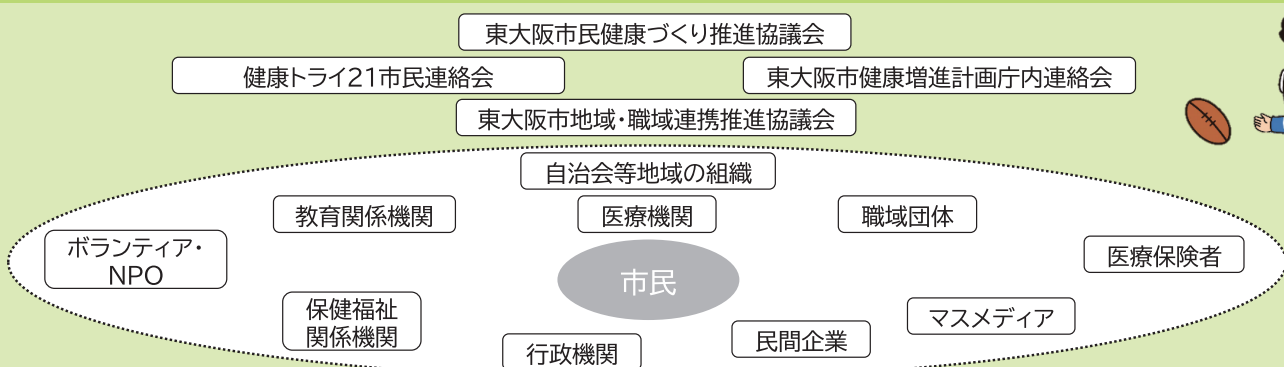


2 休日等の歯科診療に関する事項

- 休日等の歯科診療を必要とする市民のため、今後の実施体制を検討しながら引き続き診療を実施します。

第6章 計画の推進体制

【計画の進捗管理】
【計画の推進体制】



第2次東大阪市歯科口腔保健計画 歯っぴいトライ(第2次) 目標値一覧

1 歯科疾患の予防及び口腔機能の獲得・維持・向上

指 標		現状値 (令和4年度)	目標値 (令和16年度)
1)乳幼児期			
1	3歳児で4本以上のむし歯を有する者の割合	3.8%	0%
2	3歳児でむし歯のない者の割合	88.2%	90.0%
3	毎日仕上げ磨きをする家庭の割合	95.3%	98.0%
2)少年期			
4	12歳児でむし歯のない者の割合	71.6%	90.0%
5	中学生・高校生における歯肉に炎症所見を有する者の割合	14.0%	10.0%
6	歯科健康管理指導 (実施回数及び対象学年)	2回 幼稚園(年少・年長) こども園(3～5歳児) 小学校2学年、中学校1学年 (義務教育学校を含む)	4回 幼児、小学校2学年 中学校・高校1学年
3)青年期・壮年期			
7	20歳代～30歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合	令和6年度 市政世論調査を予定	減少
8	40歳で未処置歯を有する者の割合	35.7%	30.0%
9	40歳で喪失歯のない者の割合	72.9%	80.0%
10	40歳代における進行した歯周炎を有する者の割合	64.7%	45.0%
4)中年期・高齢期			
11	60歳で未処置歯を有する者の割合	22.2%	10.0%
12	60歳代における進行した歯周炎を有する者の割合	75.1%	65.0%
13	60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の割合	73.2%	80.0%
14	80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合(75～84歳)	59.4%	80.0%
15	50歳代における咀嚼良好者の割合	82.8% (令和5年度)	90.0%
16	60歳代における咀嚼良好者の割合	79.2% (令和5年度)	85.0%

2 定期的に歯科健診又は歯科医療を受けることが困難な者に対する歯科口腔保健

指 標		現状値 (令和4年度)	目標値 (令和16年度)
17	障害者が利用する施設での過去1年間の歯科健診実施率	23.7% (令和5年度)	30.0%
18	要介護高齢者が利用する施設での過去1年間の歯科健診実施率	45.5% (令和5年度)	60.0%
19	歯と口の健康管理のための研修を受ける事業所等の割合	40.8% (令和5年度)	50.0%

3 歯科口腔保健を推進するために必要な社会環境の整備

指 標		現状値 (令和4年度)	目標値 (令和16年度)
20	過去1年間に歯科健診を受診した者の割合(20歳以上)	49.2% (令和5年度)	80.0%
21	妊婦歯科健康診査を受診した者の割合	31.1%	35.0%
22	15歳未満でフッ化物応用の経験がある者の割合	67.8% (令和5年度)	70.0%